



目

目ヤニや涙がたくさん出ていたり、目をしょぼつかせたりしていないか。まぶたのしこりや目の白濁、充血などもチェックポイント。



耳

耳がおわないか、ベトベトした耳アカが出ていないか、耳をかゆがっていないかなど。夏場は外耳炎が増えるので、ムレやすい垂れ耳や耳の中に毛が多い犬はとくに注意が必要です。



口・舌 歯・歯茎

口を開けて、舌や歯茎の色や腫れ、歯のぐらつきや歯石、口臭などもチェックしましょう。犬の口内の腫瘍は悪性度が高いことが多いので、上あごや舌の裏、唇の裏など、見落としやすいところもよく確認を。歯茎が白い場合は、貧血が疑われます(鼻や肉球がピンク色の子は、貧血すると鼻や肉球も白くなります)。



鼻

“青ばな”のような色のついた鼻水や鼻血は要注意!

毛・皮膚



脱毛、フケ、湿疹、しこり、赤くなったり、かゆがっているところはないか確認。春先は、花粉やハウスダストが増え、アレルギーをもつ子は症状が出やすくなります。気になる部分は、毛をかきわけて地肌もチェック。シャンプー時は濡れて毛のかさが減るうえ、全身を触るので、異常を見つけやすくなります。



肉球・指・爪

肉球や指の間をしきりに舐める場合は、炎症を起こしている可能性があります。また爪が折れたり、伸びすぎて巻き爪になっていないかも確認を。

肛門

肛門まわりに腫れや出来物がないか、排便時に痛そうにしているか、とくに去勢していない高齢のオスには会陰ヘルニアや肛門周囲腺腫が多いので注意を。肛門だけでなく、便のチェックも重要。前立腺肥大や大腸がんでは、便が細くなったり血が混じったりします。



足

歩き方に変化がないかも、よく観察を。股関節形成不全では、歩くとふらついたり、後ろ足の甲を引きずったり。膝蓋骨脱臼では、足を地面につけず浮かせたままだったり。高齢期に多い関節炎では、歩き始めにひどく足を引きずるなど。それぞれに特徴的な歩き方の異常が見られます。

愛犬が触らせてくれない場合は?

子犬の頃から慣らしていないと、足先や口の中などは、触らせてくれない子も多いようです。もし、かみついてくるのがなければ、おやつで気を引きながらや、ご家族がペアで、1人が保定係になって取り組んでみてください。ただし、かみついてくる子の場合は、危険なので、無理して口の中は触らない方がいいでしょう。顔以外のチェックなら、エリザベスカラーの着用がおすすめです。うちの病院でも、爪切り嫌いの子はエリザベスカラーをつけて行っています。また、視覚から恐怖を感じる子もいるので、見えないように目まで覆えるマスクを手作りしている飼い主さんもおられます。

先生
教えて!

獣医師さんの健康講座

「いつもと違う」を見逃さない! 愛犬ボディチェックのコツ

触
って
ね!



お答えいただいた先生
やまかわ動物病院 院長
山川 洋司 先生

言葉でのコミュニケーションができない動物たちは、自分の病状も理解できないし、不調を伝えることもできません。そんな動物たちが、少しでも不安を感じず、安心して、大好きな家族と長く暮らしていけるような治療をめざしています。そのためには、飼い主さんも、日頃から愛犬・愛猫の体の変化に気をつけ、大事になる前に来院していただくと助かります。

「最近あまりうちの子とスキンシップしてないなあ。」
お散歩や食事の世話は毎日していても、触れ合う時間がとれないこともありますよね。でも、愛犬の体の変化に、いち早く気づいてあげられるのは飼い主さんだけ。毎日のスキンシップを楽しみながら、健康チェックを習慣にしてみませんか。いつも触っていれば、それだけ変化に敏感になれますよ。

触ってチェック! 見てチェック!

上から

背骨の突起(棘突起)がとんがって見える場合は、痩せすぎ。逆に、腰にくびれが見られなかったり、背中が広く真っ平らになっているのは、明らかに太りすぎです。

横から

横から見て、肋骨が浮いているのは痩せすぎ。逆に、脇腹を触ってみて、肋骨や肩甲骨がわからなければ太りすぎ。力を入れずに普通に触って、肋骨が数えられるぐらいがベストです。



危険な 肥満信号!

首のくびれがなくなる、しっぽの付け根が太い、背中が平らなどは、ぼつちやりを通るすぎた不健康な肥満! 生活習慣病を招いたり、手術のリスクも高まるので、ダイエットが望まれます。

痩せすぎや 太りすぎの確認 体型



仰向けに寝かせて

犬がリラックスして仰向けに寝転がっているときは、お腹をチェックするチャンス。皮膚に赤みや出来物、しこりなどがなければ確認。とくに避妊していないメスは乳腺腫瘍に注意して。

立たせて

お腹の張りは、犬を立たせた方がわかりやすいかも。お腹の周囲に両手の指を回し、ぐっと押さえ込むようにして確認します。内臓脂肪の付きすぎ、腹水などが張りの原因に。

張りやしこり、皮膚の確認

お腹



先生
教えて!

愛犬の変化を見逃さないで!

病気の早期発見チェックリスト

愛犬は具合が悪くても、言葉で伝えられません。

日頃からこんなところに気をつけて、健康チェックをしてあげてくださいね。



春夏はこんなことにもご注意ください!

暖かくなると、ノミ、ダニ、マダニなどの寄生虫も活発に活動を始めます。寄生されるとかゆいだけでなく、皮膚病を引き起こしたり、様々な病気を媒介したり、人にうつって害を及ぼすことも。しっかり予防しておきましょう。また犬は人よりずっと暑さに弱く、「まだ早いかな」と思っても、熱中症には気をつけてあげてください。



寄生虫対策

ノミ・ダニ 病院で処方された駆除剤で、**駆除・予防の徹底を**

皮膚にノミやダニがついていないか、脱毛や赤くなっているところがないか、こまめに確認を。ノミやダニは草むらなどで動物に飛びつく機会をうかがっているため、とくにお散歩帰りのチェックは念入りに。マダニは、目・耳・口まわりなど顔周辺についていることが多く、血を吸って黒く膨らんだ姿はイボと間違われることもあります。もし寄生が見られたら、安易に市販の駆除剤で済ませず、動物病院で駆除剤を処方してもらい、定期的な投与で駆除・予防を徹底しましょう。中途半端な対応では根絶できず、いつまでも悩まされることとなります。



フィラリア 予防薬や予防期間は、**獣医師の指示に従って**

フィラリア(犬糸状虫)は、犬の心臓や肺動脈に寄生する寄生虫で、感染犬から直接他の犬にはうつらず、蚊が媒介します。犬フィラリア症になると、食欲や元気がなくなり、次第に咳、腹水、貧血、失神などの症状へ進み、放置すれば命にかかります。予防は、蚊の活動時期に合わせて(通常4~5月頃から11~12月頃まで)、月1回、予防薬を飲ませるのが一般的な方法です。ただし、予防期間には地域差があり、また最近では予防薬にも様々なタイプが出てきているので、獣医師の指示に従って、適切な予防を行いましょう。

熱中症にさせない

症状 苦しそうな呼吸から始まり、進行すると意識障害へ舌を出してハアハアと苦しうに呼吸する、大量のよだれを出す、ぐったりする、目や口腔粘膜の充血などの症状が見られ、さらに進行すると、意識が混濁したり、呼びかけに反応しなくなったり、けいれんを起こすこともあります。

対処法 **まず体を冷やすこと**
日陰の涼しい場所に移し、濡らしたタオルで体を包み、タオルが乾かないように水を補ってください。また、脇、内股、首など、太い血管が通っているところにホースで水をかけるのも、効率的に体温を下げられる方法です。自力で水を飲む状態なら、十分な水分補給を。立ってられないような場合は、頭も冷やして、一刻も早く動物病院へ連れて行きましょう。

対策 犬だけのお留守番は必ずエアコンをつけて。**快適温度の目安は一般に25℃前後**

犬だけのお留守番させるときは、必ずエアコンをつけて。犬の快適温度は一般に25℃前後が目安ですが、犬種差や個体差があります。暑さに弱い短頭種なら、20℃でもいいくらい。飼い主さんが側にいてあげられるときは、エアコンの設定温度を上げる代わりに、扇風機やクールマットなどを併用し、愛犬の様子を見ながら節電対策をすることも可能です。



ワクチン接種は飼い主さんの義務です!



- 外部寄生虫対策(ノミ・ダニなど): 1年中
- フィラリア予防: 4月~12月頃まで
- 混合ワクチン: 年1回
- 狂犬病予防: 年1回

※病院や地域によって、対処期間に多少の違いがございます。

ワクチンで防げる感染症

- 死亡率の高い犬の代表的な感染症「ジステンパー」
- 嘔吐や下痢を引き起こす「犬コロナウイルス病」
- 激しい咳が特徴の「犬パラインフルエンザ」
- 子犬はとくに死亡率が高い「バルボウイルス感染症」
- 他の動物や人にもうつる「レプトスピラ症」
- 子犬は一晩で死亡することも「アデノウイルス1型感染症(犬伝染性肝炎)」
- 肺炎や呼吸器症状を起こす「アデノウイルス2型感染症(犬伝染性喉頭気管炎)」

1 食欲はどうか?

- 食べない。急に食欲がなくなった。(いつもと同じだけあげているのに、残してしまう)
- 偏食が多くなった。(以前はふつうに食べていたものを食べなくなった)

2 体型はどうか?

- 太ってきた。
- やせてきた。(よく食べるのに、やせてきた)
- おなか膨れてきた。
- 身体の一部が腫れている。

3 散歩のときは?

- 歩くのがつらそう。
- 散歩に行きたがらない。
- 元気がない。
- 歩き方がいつもと違う。

4 目はどうか?

- 目ヤニが出る。
- 目をつぶる。(まぶしそうにする)
- 目(結膜)の色が赤い。
- 目の表面(角膜)が白く見える。
- 目の内側(水晶体)が白く見える。
- 目をかゆがり、こする。

5 口や歯の様子は?

- よだれが出る。口を閉じない。
- 食べたそうにするのに食べられない。
- 出血している。
- 口臭がひどい。
- 歯が抜ける。(乳歯以外)
- 歯が重なって2重にはえている。
- 歯茎や舌の色が悪い。(白くなっている)

6 毛や皮膚は?

- 毛の状態がおかしい。(毛が一部分だけ抜けていたり、不揃いになっている)
- かゆがっている。
- 虫(ノミやダニなど)がついている。
- 皮膚が赤くなっている。
- 皮膚がただれている。
- フケが多い。

7 耳はどうか?

- 耳をかく。(かゆがる)
- 耳の中が臭い。
- 頭をしきりに振る。
- 耳の中が汚れている。

8 便の様子は?

- 血が混じっている。
- ゆるい。(便が軟らかい)
- 下痢をしている。
- 便が出ない。(便秘をしている)

9 尿の様子は?

- おしっこの色がおかしい。(赤い、白っぽい、黄色い、など)
- 出ない。少ない。(出そうとしているのに出ない)
- いつもはちゃんと決められたトイレなのに、違う場所で排泄したり、もらしてしまう。
- においがきつい。

10 ほかに、こんなことに気をつけましょう

- 水をよく飲むようになった。
- 吐く。
- 体の一部分をしきりになめる。
- 咳をよくする。
- お尻をこすりつける。
- 鳴き声がおかしい。
- よだれが出る。(よだれが止まらない。悪臭があったり血が混じっている。あぶく状になっている)